

2024年3月15日

福島県議会議員 各位

商労文教委員 各位

私たちは重ねて、自民党の「教育現場における ALPS 処理水の理解醸成に向けた取組の更なる強化を求める意見書」の取り下げを求めます。

この意見書は国自らが推進したい「ALPS 処理水の安全性」のみを全国の学校で「教育」することを強く求めています。これはまさに教育現場への政治的介入を容認し、後押しすることです。

国が教育に対して行うべきは、児童生徒が考える力、学びの力を養うための環境整備であって、国の主張を展開することではありません。ましてや、東京電力という民間企業が行っている作業を、全国の児童生徒に理解させようとするのは「教育」ではありません。

この意見書が周知されるにつれ、国内外から取り下げを求める声が県議会や各会派に届けられたことと思います。それほど市民はこの意見書が可決されることに大きな危機感を持っているのです。

3月4日朝、私たちが県庁前で取り下げを求めるスタンディングを行った際、会釈して通った市民は少なくありませんでした。「がんばれ！」と声を掛けてくれた方、私たちの要請文を読み、「自分も大変懸念している」と、話しかけてきた方もいます。

この意見書の採決を多くの市民、県民が注視しています。各議員におかれましては、今一度、国の教育現場への介入が孕む危険性を認識し、この意見書を取り下げる、または否決するご判断を心からお願いいたします。

意見書の取り下げを求める福島県民有志  
大河原さき 三春町字清水 55 090 9315 2476  
片岡輝美 会津若松市西栄町 8-36 090 7567 6588  
他 32名